

# 武蔵野市の特徴ある教育

武蔵野市教育委員会 HP (教員公募)



詳細は、10月1日に掲載します。

## 体験するムサシノ

セカンドスクールとは、市立小学校5年生と市立中学校1年生を対象として実施している、自然豊かな農山漁村に長期宿泊を行う教育活動です。普段の学校生活(ファーストスクール)では体験できないような学習活動を授業の一部として行っています。

また、セカンドスクールをより効果的に実施するため、小学校4年生を対象にプレセカンドスクールを実施しています。

セカンドスクールでは、一般的な移動教室と同様に学期中に行うこと、生活指導員を複数配置して、教員の負担の軽減を図っています。先生の都合によっては、前半・後半で教員の入れ替えを行うことも可能です。また、行先や内容は、児童・生徒の実態に応じて、各校で決定しています。



今年度滞在先：長野県安曇野市  
山梨県山中湖村 など

## 対話するムサシノ

先生方や児童・生徒が日頃感じていること、思っていることを直接教育委員会に届けられるのが、武蔵野市の大きな特徴の一つです。

教育委員や教育委員会事務局が学校に訪問し、先生方のお話を伺う機会も設けています。

児童・生徒・教職員の意見を踏まえて、昨年度から学校図書館に学校司書を週5日配置するなど、対話から教育委員会の施策に実際に反映されることも数多くあります。



## 開かれたムサシノ

昨年度から学校運営協議会機能を取り入れた「開かれた学校づくり協議会」のモデル校の取り組みがスタートしています(境南小学校・第一中学校)。この取り組みは、20代の大学生から60代の地域住民まで多様な委員が1年間を通じて熟議を重ねるのが大きな特徴となっています。モデル校のうち

境南小学校はCS枠で教員の募集を行う予定です。活動の様子は市HPから「地域と学校の協働通信」でご覧いただくことができます。

この他、市では平成28年度から地域コーディネーターを全校に配置し、「開かれた学校づくり協議会」やPTA、地域の団体等と協力しながら、学校支援人材に関する学校への情報提供と、その連絡調整にあたることとしています。



## 支え合うムサシノ

学校の働き方がブラックと言われてから数年、この記事を読んでいる先生方は、今の自分の教育活動に満足していますか。

武蔵野市では、単独またはT1としての教科指導(学校の年間指導計画をもとに、1単位時間の指導計画を立て、評価や評定も行う)市講師を配置し、小学校高学年であれば持ち時数を上限20時間に引き下げています。この他、部活動指導員、学校司書、学習支援員やティーチングアシスタントなど、学校を支える多様な職のスタッフが先生方を支えています。

教育の主役は一人一人の子どもたちです。児童・生徒との対話を大切に、他の教員・地域と協働して教育活動に取り組もう組もうという意欲のある先生方を、武蔵野市は歓迎します。

